

としょかん つうしん

通巻51号

(平成21年6月)

編集・発行 印西市立大森図書館

図書館ホームページ

・パソコン から・・・

<http://www.library.city.inzai.chiba.jp/>

・i-mode から・・・

<http://www.library.city.inzai.chiba.jp/i/>

著作権

やさしい著作権講座その

はいつまで保護される？

今回は**著作権の保護期間**についてお話ししたいと思います。

著作権は、著作者にとっての大切な創作物ですから、もちろん未来永劫権利に守られているのです...というのは**大間違い**で、著作権には明確に保護期間が定められています。

著作権の保護期間は、原則として**著作物を創作した時に始まり、著作者の死後50年保護されます**。ちなみに複数の著作者が共同して作った著作物については、最後に死亡した著作者の死後50年となります。

もちろん例外もあります。

無名または本名ではない名前の著作物 ... 公表後50年
著作者がだれか分からないと、著作者がいつ死亡したのかわからないので、この場合は著作物が公表されてから50年とされています。ただし、本名でない(つまりペンネームですね)で公表されていても、その作者が誰かというのがはっきり分かっている場合は、原則どおり著作者の死後50年となります。

団体の名前で公表された著作物 ... 公表後50年
会社や団体の著作物は、死亡年を基準と出来ないため、公表後50年としています。

映画の著作物 ... 公表後70年

映画は、監督やカメラマン、出演者など大勢の人(=著作者)によって作られるものですので、団体の著作物と同様、公表を基準として保護期間が定められています。その期間は、平成15年に著作権法が改正されて、公表後50年だったのが70年に延長されました。

上記の保護期間が終了すると、著作権者の権利は消滅して、みんなの財産として、誰でも自由に利用できるようになるのです。

ただし、ここで注意しなくてはならないことがあります。保護期間が過ぎて自由に利用できるようになるのは作品そのものであって、例えば「源氏物語」をある人が校訂して出版したのであれば、その校訂者や出版社がその出版物の著作権者となるので、勝手に複製したりすることは出来ません。取り扱いには十分注意しましょう！



図書館・これからの催し

7/18

親子で学ぼう 身近な環境と自然 (大森図書館)

川めぐりの船に乗って水質や自然を家族で観察し、図書館の資料と併せて環境について考えましょう。

日 時：7月18日(土)

10時から正午

(荒天の場合は船での観察は中止)

集 合：中央公民館

対 象：小学生とその保護者

定 員：10組

参加費：1組500円

申込み：6月16日(火)9:00から大森図書館カウンターか電話で受付します(定員になり次第締め切りとさせていただきます)

7/23

おとな&子どものおはなし会ライブ (大森図書館)

すばなしや大型絵本など、おとなも子どもも誰でも楽しめるおはなし会を行います。ぜひご来場ください。

日 時：7月23日(木) 11時~

会 場：印西市文化ホール
ホワイエ

参加費：無料

事前の申し込みは不要ですので、ぜひお気軽にご参加ください!



7/30

科学あそび(小倉台図書館)

図書館の本を参考に「手づくりスライム」を作って、楽しく遊びながら科学を体験しましょう!

日 時：7月30日(木) 10時半~11時半

会 場：小倉台図書館 集会室

対 象：小学4~6年生

(保護者の方も参加OKです)

定 員：12名

参加費：無料

申込み：7月3日(金)9:00から小倉台図書館カウンターか電話で受付します(定員になり次第締め切りとさせていただきます)

図書館からのお知らせ

引越しなどで住所や電話番号が変更となる方は、必ず図書館にある「変更届」に記入して提出して下さい。

また、遠方に引っ越されるなど、今後印西の図書館を利用されない場合には、「としょかんカード」を窓口にご提出下さい。また、図書館で借りた本などの返却もお忘れにならないようお願いします。



おはなし会においでよ!

図書館では定期的におはなし会を行っています。大きな絵本や紙芝居、季節や行事にぴったりの、楽しいおはなしをご用意してお待ちしております。ぜひお気軽にお越しください!

大森図書館 (おはなし室)	第2・4日曜日 午前11時~
小林図書館 (遊戯室)	第4土曜日 午後3時~
そうふけ図書館 (おはなしのへや)	第1・3土曜日 午後3時~ 第2・4土曜日 午前11時~
小倉台図書館 (おはなし室)	第1・3木曜日 午後3時半~

事情で日程が変更になることもありますので、各図書館にお問い合わせ下さい。

楽しかったね！～行事報告～

- 児童特別展示 -

4/23(木)～5/10(日)実施

大森図書館

『あつまれ！おはなし会でよんだえほんたち』というテーマで、平成16年から平成20年の間のおはなし会で読んだ絵本の展示をおこないました。貸出しも多く、みなさんに楽しんでもらったのではないのでしょうか。



そうふけ図書館

全国学校図書館協議会選定「よい絵本」の展示を行いました。知られている絵本が多かったので、展示コーナーからは、たくさん絵本が借りられました。小学校で読み聞かせを行っている方にも、参考にしていただくことができました。

- 図書館クイズ -

4/23(木)～5/10(日)実施

小林図書館

小学生を対象に行いました。前回は大幅に上回る56名の参加がありました。クイズを通して日頃図書館を利用しない子の参加もかなりあり、とても良い機会を持ってました。答えを求めてたくさん子どもたちで賑わうのはうれしいことでした。

小倉台図書館

40名もの参加があった小倉台図書館の図書館クイズですが、全問正解したのはその内の3名のみでした。「そうふけっばらのきつね」や「光堂の竜」といった印西の昔ばなしについての問題が難しかったようです。

また挑戦して下さいね！



図書館 人気の本

(平成21年5月27日現在)

湊かなえさんの
「告白」、2009年の
本屋大賞を受賞！

告白	湊 かなえ / 著
悼む人	天童 荒太 / 著
ガリレオの苦悩	東野 圭吾 / 著
聖女の救済	東野 圭吾 / 著
パラドックス 13	東野 圭吾 / 著
英雄の書(上下)	宮部 みゆき / 著
流星の絆	東野 圭吾 / 著
イノセント・ゲリラの祝祭	海堂 尊 / 著
最後のパレード	中村 克 / 著
モダンタイムス	伊坂 幸太郎 / 著

上記の本は非常に人気があり、リクエストをしていただいても長期にわたりお待ちいただくこととなります。ご了承下さい。上記のうち、ご自宅に不要になった本がございましたら是非図書館にご寄贈ください！

この本、
おすすめですよ！



風薫る5月が過ぎて、そろそろ梅雨の季節。洗濯物は乾かないし、傘を持って歩くのも億劫だし、食べ物はすぐカビが生えるし...。と、ネガティブなことばかり考えてもつまらないですよ。静かな雨音を聞きながらゆったりと読書を楽しめる日、なんて考えてみませんか？今回はそんな時にぴったりの、雨のシーンが印象的な作品を揃えてみました。



ノルウェイの森 村上 春樹 / 著 (講談社)

いまさら説明不要な、村上氏の名を全国に広めた大ベストセラーです。『これは恋愛小説です。(中略)激しくて、物静かで、哀しい、100パーセントの恋愛小説です』

これは、本の帯に紹介されていた作者自身の言葉ですが、これ以上の言葉はいらぬというくらいに、この作品の内容を伝えていると思います。この作品は、もともと「雨の中の庭」というタイトルで書き始められたのですが、確かに雨の降るシーンはとても印象的だし、作品全体からも雨の匂いがしてくるような、そんな雰囲気があります。

理由 宮部 みゆき / 著 (朝日新聞社)

激しい雨が降る6月2日、ある高級マンションで一家四人が死体で発見された。一人は墜落死、残りの三人は何者かに殺されたようであった。しかし、死体は発見された2025室の住民ではなかった。誰が誰を殺したのか、そして何故事件は起こったのか...

この不思議な状況での事件の謎もさることながら、この作品で特徴的なのは、実際に起こった事件を執拗に調べ上げたルポルタージュのような文章で書かれていることです。感情を抑えて書かれた硬質な文章のため、好みは分かれそうですが、とても充実した内容です。



No Image

いま、会いにゆきます 市川 拓司 / 著 (小学館)

ある町の司法書士事務所で働く秋穂巧は、息子の佑司と二人暮らし。巧の妻である澪は、一年前の雨の季節に病気で亡くなってしまっていた。頼りない巧と佑司の生活を不安に思っていた澪は「またこの雨の季節になったら、二人がどんなふうにいるのか、きっと確かめに戻ってくるから」という言葉を残していた。そして、その言葉どおり、ある雨の日に、二人のもとに澪は戻ってきた。しかも記憶をなくして...

最初から最後まで、とても静かな雰囲気で作られた世界。哀しいお話ですが、何とも心が穏やかに、そして優しくなれる作品です。

表紙画像は出版社に許諾を得て掲載しております。

図書館についてのお問い合わせは、
もよりの図書館まで！

大森図書館	・・・	42-8686
小林図書館	・・・	97-0005
そうふけ図書館	・・・	45-2566
小倉台図書館	・・・	47-5511

編集 後記

最近、以前にもまして古本屋めぐりが趣味になっています。気軽に読んだことのない作家さんの作品を手にとることが出来て、読書の幅が広がっているように思えます。この前は、以前から探していた絶版の本が100円のコーナーにあったので、つい「おお〜っ」と人前で大声を出してしまいました。嬉しいやら恥ずかしいやら...。(T・A)